

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 2日		～ 令和6年 9月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 18日		～ 令和6年 9月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 9月 2日		～ 令和6年 9月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	26園	(回答数) 21園
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園や家庭での困りごとに寄り添い、お子様の特性を踏まえた上での事業所での関わり方を共有し、お子様の困りを少しでも和らげられるようにし、園や家庭でも楽しく過ごせるようにしていくこと。	お子様の困りごとに対して、できる限りいろんなできることを園や家庭に提案しています。また、ご家族様の気持ちに寄り添っていくことで、気持ちの負担を和らげられるように心掛けています。	園や家庭、事業所での様子を共有していくことで、お子様のアセスメントをより一層詳しいものにし、支援計画に反映させていきます。
2	お子様の得意なことを園や家庭と共有し、得意な部分を伸ばすことでお子様の強みにしていくこと。	困りごとに目が行きがちですが、お子様の得意なところに目を向けていけるようにしています。	得意なところを伸ばしていくために、いろんな経験が積める活動の提案をします。
3	臨床心理士による研修やカンファレンスにより、訪問員が専門性を学んでいることで、園生活への困りごとに対する悩みに寄り添いながらも特性のある児童への関わり方をお伝えできること。	研修やカンファレンスでの学びを行い、専門制を高められるようにし、それを園生活で活かせる提案ができるように知識を深めていく。	訪問を行っている事業所との繋がりを持つことで、情報の共有を行っていくと共に、保育所等訪問支援の拡充。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園によっては支援計画に反映できるほど先生との話し合いができていないこと。	保育所等訪問支援を行った後も保育中で話ができる時間を設けることが園によっては難しい様子が見られます。	保育所等訪問支援を行わせていただいた保育所によって、話し合いができる時間が違うので、園や先生のご都合に合わせて話し合い出来る時間を作るようにしていきます。
2	保育所等訪問支援の後、送迎時やオンラインで園での様子をフィードバックしたり、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や情報提供の機会を作っているが、浸透できていないこと。	ペアレントトレーニングという言葉を使っていないことで、家でできることの提案をしてもペアレントトレーニングと捉えてもらっていない様子がうかがえます。	家でできることの提案をお伝えするときにペアレントトレーニングという言葉にも意識できるような伝え方をしていきます。
3	保育所等訪問支援を行うにあたって、事前相談が保護者様に出来ていないこと。	保護者様のご要望をしっかりと聞き取るようにしていく。	保育所等訪問支援を定期的に行ったり、保護者様から園での様子に関してご相談があった時に、ご要望に応じて行うようにしておりますが、中には相談しにくい方もおられると思います。その辺りもしっかりと考慮した上で、保護者様との連携をとって行うようにしていきます。